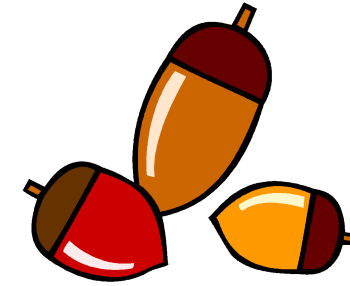


図書館だより



2018年（平成30年）
11月26日 ・ 月曜日

第 13 号 読書感想文号

北海道旭川永嶺高等学校
図 書 局

「自閉症の僕が跳びはねる理由」を読んで

山 森 怜 愛 2 年 5 組

「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」は、会話のできない重度の自閉症である東田直樹さんが訓練によってパソコンや文字盤ポインティングでのコミュニケーション方法を身に付け、自身の思いを執筆したものです。13歳の時に、理解されない自閉症者の内面を伝えた本書を国際的作家デイヴィット・ミッチェル氏が翻訳し、世界的なベストセラーになりました。デイヴィット氏自身の息子も実は自閉症であったため、我が子の行動や思いが理解できずに心を痛めていたところ、この本に出会い感動したそうです。世界中の自閉症の子を持つ親に伝えたいと28か国30言語で翻訳し、多くの共感・共鳴を受けています。

「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」は、会話のできない重度の自閉症である東田直樹さんが訓練によってパソコンや文字盤ポインティングでのコミュニケーション方法を身に付け、自身の思いを執筆したものです。13歳の時に、理解されない自閉症者の内面を伝えた本書を国際的作家デイヴィット・ミッチェル氏が翻訳し、世界的なベストセラーになりました。デイヴィット氏自身の息子も実は自閉症であったため、我が子の行動や思いが理解できずに心を痛めていたところ、この本に出会い感動したそうです。世界中の自閉症の子を持つ親に伝えたいと28か国30言語で翻訳し、多くの共感・共鳴を受けています。

私はこの本を読んで、自閉症の人が自分の行動だけではなく感情もコントロールできないことに苦しんでいると知りました。話したいことが話せず、関係のない言葉はどんどん勝手に口から出ることが辛く悲しく、みんなが簡単に話しているのがうらやましくて仕方がないという思いを持っていました。また、自分の体さえ思い通り

にならなくてじっとしていることも、言われた通りに動くこともできず、まるで不良品のロボットを運転しているように感じていました。その上、みんなに叱られ弁解もできず、世の中の人に見捨てられたような気持ちでいるということが分かりました。筆者は、自分の気持ちを相手に伝えられるということは自分が人としてこの世界に存在していると自覚できることだと言っています。話せないということがどういうことなのか自分に置き換えて考えてほしいとも言っています。もし私も思っていることが伝わらず、さらに誤解され、感情を伝える方法がなかったとしたら、辛くて悔しくて憤りを感じていると思います。せめて気持ちを理解しようとしてくれる人もいれば心も落ち着くかもしれませんが、分からない人だと決めつけられ向き合ってもらえなければ、絶望して生きる意味を見失うのではないかと思います。

何度言っても分からない子、独りが好きな子と決めつけられています。本当は自分のせいで他人に迷惑を掛けていないか、嫌な気持ちにさせていないかと周囲に気を遣い、人というのが辛くて独りになっていたことを知りました。いつもみんなと一緒に居たいのに一人が好きだと言われる度に、仲間外れにされたような寂しい気持ちになっていました。このように誤解されても周りのことを考えることができるのは、優しさと強い一面を持っているからだと思いました。筆者は、本当の優しさは相手の自尊心を傷付けないことだと言っています。私自身も今まで私自身も今まで自閉症の人とかかわる際に、落ち着きのなさや素直な笑顔を見て、どこか小さな子とか自閉症の特徴に、すぐ側にいる人に声を掛けられても気付けなかったことがあるそうです。声だけで人の気配を感じたり、自分に問い掛けられている言葉だと理解することが難しいため、声をかけるときは名前を呼び、気付いてから話し掛けることが大事だと感じました。また、独り言が大きく変な声を出しているときは、自分が言いたくて話をしているのではなく、落ち着きたくて自分が簡単に言える言葉を喋る反射なのだそうです。その反射は、

見たものや思い出したことが刺激になって出てしまうために止めることが難しく、無理に止めようとすると自分の首を自分で絞めるくらい苦しいそうです。本当は静かにしたいのに奇声を上げてしまい、人に迷惑を掛け家族にも恥ずかしい思いをさせていると感じていました。自閉症の人にとって声を出すことは呼吸のようなものであると知ること、私たちはもっと優しく見守ることができると思いました。

自閉症の人は小さい頃は自分が障害を持っていることに気付いていず、成長に伴って周りから普通と違って困ると言われて気付いていくと言っています。でも、自閉症の人にとって普通の人になることは難しく、できないと感じています。筆者は自分の心の中を説明することで、見かけで判断せず、中身を知り、今よりも身近な友達の一人として仲良くしてほしいと思っています。謎だらけの自閉症の世界の耳を傾け、個性と思ってもらいたいと願っています。

私はこの本を読んで、普通とは何かと考えさせられました。一人も同じ人間はいないし、一人ひとりの個性がその人の良さだと思います。筆者も13歳で訓練し、執筆を通して高い感性を持っていることを証明しました。「何度言っても分からない子」という自閉症へのイメージを大きく変えたと思いました。私は障害を個性と捉え、その人が何を思い、どのように伝えられるかを知るために、しっかりと向き合う姿勢を持ちたいと思いました。そしてお互いの存在を認め、尊重して関わり合うことで大切に思う気持ちが深まると思います。大事な存在になることで生きる意味を実感できるようになると思いました。

図 書 局 員 募 集 中

3年生が卒業してしまうと、2年生二人だけになってしまいます。興味のある人は、牧野先生まで。

平成30年度北海道児童・生徒読書感想文コンクール応募作品に選ばれた入賞以外の作品と氏名をお知らせします。（このコンクールの応募作品には前号でお知らせした旭川市コンクール入賞作品も含まれています。）

水 口 未 侑 2年1組
「この世界の片隅に」を読んで

平 野 紗 菜 2年2組
「和菓子のアン」を読んで

高橋 樹里亜 2年3組
「ルーシー変奏曲」を読んで

安 田 真 優 2年6組
「君の膵臓をたべたい」を読んで

山 形 真 優
「誰にでもあること」を読んで